

第 3689 図

ひがんばん科



第 3690 図

ひがんばん科



第 3691 図

ひがんばん科



じゃがたらずいせん

*Hippeastrum reginae* Herb.

嘉永年間に舶載された多年生草本で、元、メキシコ原産である。現在は栽植されることの少ない古渡植物の一つで、九州の南部其の他の暖地に僅にこれを見る。地下に大形の重襲鱗茎があり、略球形で、表皮は黒褐色、径5cm以上あり、内部は白色、春葉を2列に生じて左右に開き先端は彎曲して垂れ、長さ20-30cm巾2cm許、濃緑色で先端は漸次細まり、鈍端である。夏に葉の中央から太い花茎を抽いて高さ30cm許に達し、膜質の総苞を反転して2-3の濃赤色の大形花を側方に向けて稍垂れ気味に開く。小梗は長さ3-4cm、膜質線状披針形の小包を伴い下位子房は橢円形緑色。6花蓋片があり、雄蕊6個は垂れて下方の花蓋片に接し、先端は彎曲上昇する。花柱は糸状、雄蕊より少しく長く、先端は3岐する。

あまりりす

*Hippeastrum hybridum* Hort.

植物学上は *Amaryllis* でなく *Hippeastrum* に属する雑種性の多年生草本で地下に黒褐色の外被を被る大形の重襲鱗茎がある。通常花戸に見るものはベニスジサンジコ *H. vittatum* Herb., *H. aulicum* Herb., キンサンジコ *H. equestre* Herb., *H. reticulatum* Herb., ジャガタラズイセン *H. reginae* Herb. などの原種を祖先とする改良種である。春地上に広線形、厚質、濃緑色の葉を2列に出し、先端は尖るか又は鈍端、夏に太く、多少粉白で中空の花茎を直立して生じ、先端に3-4個の美大な花は繖状に側方に向き開く。6花蓋片、6雄蕊、1雌蕊があり、花は濃赤、白に赤色の網紋のあるもの、赤に白条のあるもの等品種が多い。純白色、広弁のものは特に珍重される。

しろばなまんじゅしゃげ

*Lycoris albiflora* Koidz.

九州及び済州島に稀に発見される多年生草本で、時に人家で観賞のために栽植される。ヒガンバナとショウキランの雑種と推定される。地下の重襲鱗茎は卵形で黒褐色、横径4cm内外。葉は秋に出で、1-2月頃最も繁り、線形で軟質、黄緑色で、ヒガンバナより淡く、巾10-15mm、春に枯れる。秋10月頃高さ40-50cmの中空の花茎を抜き出して、膜質の総苞を反転し、繖形に外向して10数花を開く。小梗は長短があり、花はヒガンバナと同大であるが、6個の花蓋片は強くは反曲せず、辺縁の彎曲も弱く、6個の線状雄蕊は彎曲して、長く花外に超出する。花色は株によって変化があり、純白に黄、或は淡紅を帯びる。果実を結ばない。

こきんばいざさ

*Hypoxis aurea* Lour.

本州の関東以西、四国、九州の暖地向陽の地に生ずる多年生小草本で、東南アジアに広く分布する。根茎は塊状で径1cm内外。頂に数葉を簇生する。葉は狭線形、先端は細長く尖り、基部は狭まり、長さ10-25cm、中央より上部が最も巾が広く、全体に長毛を疎生する。花茎は下部の葉腋より出で、長さ5-10cm許、繊長で、花部と共に淡黄色の長毛があり、線状の苞葉が1-2個ある。花は黄色、径1cm内外短梗があり、茎上に1-2個上向して開き、有毛、鈍稜三角柱状の下位子房上に筒部を欠く花被片6片を平開し、外花被片の背面先端部は殊に長毛が密生する。花中に雄蕊6個と短花柱を有する子房があり、花後、花被片は直立して宿存し、三角柱状円筒形、基部の狭窄する長さ8mm許の果実を結ぶ。種子は黒褐色、球形、先端急に尖り、一側に鈎状附属体がある。

きみがよらん

*Yucca recurvifolia* Salisb.

北米原産の常緑半灌木で、関東以南では戸外で越冬するのでよく庭園に栽植される。茎は高さ2m余、径10cmに達し、先に四方にひろがった多数の長い葉を密につける。葉は革質強靱であるが多少垂れ下り、長さ50cm-1m巾4-7cm、殆ど平らで蒼緑色、縁に糸はない。初夏或は秋に高さ1m以上に及ぶ花茎を出し、苞葉を互生し、円錐花序をなして多くの花をつける。花は下へ向いて半開し径5-7cm、花被片は6枚、質厚く帯黄白色で背部は少し暗紫色をおびる。6雄蕊、1雌蕊。果実は長楕円形で直立し、長さ8cm許、内に多数の黒色の種子がある。

いとらん

*Yucca Smalliana* Fernald

(= *Y. filamentosa* auct. plur.)

北米東南部原産の常緑多年生草で観賞用として庭園に栽培される。茎は短くて立上らず、四方へ多くの長い葉をひろげる。葉は革質で径2-3cm、上部は長く細まって尖り垂れ下り、縁から繊維が糸の様にほぐれて離れる特性がある。6-7月、葉より遙に高い直立した太い花茎を出し、大きい円錐花序をなし多数の花をつける。花軸には乳頭状の毛が多く、卵形鏡頭の苞腋に長さ1cm内外の1-2個の小梗を出す。花は下へ向って開き径6cm内外、花被片は6枚、楕円形で先は長く尖り巾1.5cm内外、帯緑白色、6雄蕊、1雌蕊。和名糸蘭は葉の縁から糸が離れる性質によるものである。

第 3692 図

ひがんばん科



第 3693 図

ゆり科



第 3694 図

ゆり科

